

平成29年度 第2回小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成30年3月28日（水）15時30分から16時45分まで

場所：小平市役所 大会議室

2 出席者

(1) 委員

13名（関委員長、神保副委員長、井上委員、上原委員、久保田委員、小林委員、竹内委員、田中委員、長島委員、西田委員、信山委員、藤原委員、松原委員）

(2) 市側出席者

齊藤企画政策部長、企画政策部安部政策課長、同横山課長補佐、同畠山担当係長、同芳賀担当係長、地域振興部板谷産業振興課長、同増原課長補佐、子ども家庭部小島子育て支援課長、同市川保育課長、健康福祉部永井健康推進課長。

(3) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料1 地方創生推進交付金について

資料2 交付金事業の実施状況（平成29年度）

資料3 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る予算状況（平成30年度予算額）

資料4 出合いの創出事業について

4 内容(議事要旨)

(委員) まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成31年度までの5年間の計画となっている。平成29年度は3年目で中間の年となるので、実施状況や翌年度予算についてよくご確認いただき、ご意見をいただければと思う。

(1) 議題1 地方創生推進交付金について

資料1を用いて事務局より、地方創生推進交付金の概要について説明をした。

(委員) 具体的な事業内容については議題2となるので、そちらと合わせてご意見をいただく。

(2) 議題2 交付金事業の実施状況(平成29年度)

資料2を用いて事務局より、地方創生推進交付金を活用して実施している事業の進捗状況や、数値目標(KPI等)の進捗状況について説明をした。

(委員) 補足として、実際に事業を運営している立場からご説明いただきたい。

(委員) 「すだち」については、小さいながら色々な要素の入った拠点となっている。キッチンやサロンで独立を目指す方が日替りで入っており、概ね1年を目安に巣立つ(卒業する)ということで、今ちょうど、最初に入っていた方々が巣立ちつつある。サロンで開業する方や、資金を含めて準備の必要性を感じ、その準備に入った方もいる。4~5月で、新たなシェフさんが入る予定。

各種研修については、テレワークについての研修や、暮らすまちでしごとをつくることにつながる研修。比較的少人数で実施しているので、受講者同士のコミュニティが形成され、切磋琢磨する動きも出てきた。スタッフの配置についても、その点を意識し、その方向性(コミュニティ

形成の方向性)を支援していくことを考えている。

テレワークについては、単価の上昇等を進めたい。

(委員) 私は、実際に相談する立場ですだちを利用させていただいた。相談にかがいが、今後どうしていけば良いか説明を受け、わかりやすかった。

(委員) すだちが存在しなかった頃と比較してどうか。

(委員) 今までは、興味があっても行動には至らなかった。商工会議所などでも支援はあると思うが、入るのに少し勇気がいる。すだちは、ガラス張りで入りやすい雰囲気であり、ホームページも親しみやすかった。

(委員) 社会福祉協議会とは何か連携等あるか。

(委員) 何度か打合せをさせていただいている。子育て団体のイベントがあったので、そこと話がつながり、周知の機会が出来たということもあった。このような仕組みがあることについて、知っていただく機会をまず作っていくことが重要と思う。

(委員) 子育て団体側としてはどうか。

(委員) ポスターの作成について、すだちに発注も検討したが、見積り合わせの結果、発注には至らなかった。ただ、イベント時にブースを出してもらい、周知の機会になった。すだちで行う研修について、保育担当として入ることもあるが、研修を終えたお母さん達の表情や言葉から、ここが大切な場になっているということを感じた。

(委員) 実際に育児をしている立場ではどうか。

(委員) 2人目が産まれてから、今日が初めての参加。すだちオープンの際は、子連れでセレモニーにも参加させていただいた。2人のうち上の子については、保育園の1次は落選だったが、2次で内定をいただき、2人とも入園可能となった。今後の仕事について考えている部分もあり、すだ

ちのホームページについて今お話も聞いたので、まずは見てみたい。

- (委員) 税理士の立場から何かアドバイス等あれば。
- (委員) 同じ創業という切り口でも、税理士会が相談を受けるのと、すだちでの相談では、趣が異なるように思う。いよいよ創業するという段階より、もっと手前の段階の人が対象となる印象なので、そこから先に進めるよう、うまく支援していけると良いのでは。
- (委員) すだちで相談を受けるケースでも、お金周りのことになったら、青色申告会や商工会等に話をつなぐことも多い。
- (委員) 起業している立場から見てどうか。
- (委員) 創業にもいくつかパターンがあって良いと思う。人生をかけて起業するという人もいれば、ちょっとやってみてうまくいったら次、というパターンの人もある。何か自分でやろうという人を発掘する場が出来た事は喜ばしい。
- (委員) 2(3)の「創業支援」について、携わる金融機関としてご説明いただきたい。
- (委員) 他市でも同様の創業支援について携わっており、それらと比較して、小平市の参加者数は概ね同程度。少なくはないし、かといって多いという程でもない。大勢の人が押し寄せる性質のものでもない。ベンチャーの人は自分でやっていくので、このようなセミナーには来ない場合が多い。支援の必要な人が来る。
- 西東京市にも、すだちにやや類似した施設が出来たり、吉祥寺にもあったりする。便利な場所に人は集まりやすいので、小平をベースにしている人をターゲットにすることとなる。
- すだちについては、何度も訪問させていただいており、女性が入りやす

い雰囲気を感じる。自分がネクタイを締めて行くと、かえって違和感あるくらい。また、中で取り組んでいる人達は真剣。ワンデーキッチン等を経て、独立はやめようと決心した人もいるが、その決心に至ることもまた重要なことだと思う。

すだちには、全国から視察も来ている。小平の名を広める価値も生じている。キッチンやサロンはうまくいっていると思うが、テレワークはさらに考える必要があるのでは。

(委員) すだちの視察については、次回の推進委員会で件数等資料を示していただければと思う。創業支援で、個別相談に21名参加しているが、そこから起業した方はどのくらいいるかわかるか。

(事務局) 相談後の状況については、正確に把握していない。創業に向けて、初期段階での相談が多い印象である。

(委員) すだちは、小さいがぬくもりのある空間。創業支援は、金融機関がノウハウをもって支援ということで、小平市としては双方の良さをそれぞれ生かして展開していけると良いのでは。

(委員) 子育て中の女性の就労促進について、テレワークの登録53人で80万円では、独立は難しいのでは。1人あたりはかなり少額。単価がより高い仕事を斡旋できることが重要では。

(委員) すだちの事業は、将来の再就職に向けたスキルアップの側面もある。もう少し時間がたてば、より単価の高い仕事もとれるようになるのでは。

(委員) すだちのテレワークは伴走型のテレワーク。スキルはある程度あっても、テレワーカーとして必要なビジネス的部分については何も知らないお母さんがやっていけるよう、テレワークコーディネーターが伴走

する形となっている。

(委員) 子育て応援サイトのこだちについて、もう少し詳しく聞きたい。

(委員) こだちには、子育て中の女性が編集委員となって記事を掲載するページがあり、それが特色となっている。今は、ライター講座をしっかりと受講した人が、取材のアポとりから行き、記事を掲載している。

(委員) アクセスも伸びていて、関心の高さがうかがえる。自分は職場を通じて多くのお母さんと接する中で、子育てもしっかりしたいし、将来の仕事も見据えていきたいと考えている人が多いと感じている。そうした中では、やはり子育て支援の重要性を感じる。幼稚園でも、アットホーム事業で夜6時半まで預かる体制も整えてきている。すだちやこだちについて、もっと周知が進めば、お母さん達も未来を見据えやすくなるのではと思う。情報はまだ行き届いていないのでは。

(3) 平成30年度の予算状況等

事務局より、資料3を用いて、総合戦略で掲げた施策全般に係る平成30年度当初予算の概要を説明し、資料4を用いて、出会いの創出事業に係る来年度の展望等を説明した。

(委員) 総合戦略は既存事業も含めた形で策定されているので、予算額も大きくなっている。ご覧になって何かご意見等あれば。

(委員) 金額でいえば、子育て支援の金額が大きくなっており、そのこと自体は順当かなと思う。

(委員) 「住んでみたいまちづくり」の部分もそれなりの金額だが、これはどのような内容が入っているか。

(事務局) 小川駅西口や小平駅北口の再開発事業などが入っている。

- (委員) 資料4は出会いの創出事業についてだが、このあたりについて、J Cの立場から何かあれば。
- (委員) 保育園について、保育士さんの育児支援がもっと充実すれば良いのではということが話題に出ることもある。
- 出会いについては、以前にお話しした内容と重複するかもしれないが、ダンスなどよりも、参加のしやすい、例えばゲーム等で、相手の人となりを知れるような機会があると良いのでは。ボードゲームやカードゲームだと参加しやすいように思う。
- (委員) 何かを一緒に行う機会があることが重要と思う。J Aはどうか。
- (委員) 農家はやはり、担い手で苦慮しているところもある。J Aでも結婚相談事業は行っているが、アプローチの苦手な方ほど支援が必要であり、そのような方は、単に機会があるだけでは難しい。間をとりもつような人がいると良いのだが、昔の世話焼きおばさんのような人が今はいないということもある。
- (委員) 幼稚園で若い先生たちを見ていると、例えば「だいらコン」など、興味はあっても参加するのはハードルが高いような様子を見せていた。幼稚園に来てくれれば色々お話ししやすいのになと言っている先生もいた。
- (委員) 出会いの場は、参加者を集める部分が一番大変。いかに独身の方に参加していただけるかが重要となる。
- (委員) 中国式の方法だと、公園で親同士がプロフィールを持ち寄って話を進めるというやり方もある。本人を集めるのが難しいならば、そのような展開も考えられるかもしれない。最後に、全体を通じて何かあれば。
- (委員) 創業支援の参加者は、やりたい事が具体的にある人なのか、それとも何をすれば良いかという感じの人なのか教えてほしい。タイプによってバ

ックアップの仕方も変わると思う。

(委員) 創業セミナーと創業塾があり、セミナーは先輩の事例を聞く会で、塾は創業の具体的な部分についてノウハウを学ぶ場となっている。比較すれば塾の方は具体的な人が多い。ただ、全体的に言えることは、本当に具体的なビジョンを持っている人はセミナーにも塾にも来ないで、自分で進めていく。行政では、そうでない人を支援する場を設定している。

(委員) 例えば、ラーメン屋をしたいという人には、その道の人につないだりするのかな。

(委員) それはそれで、相談対応中に行っている。

(委員) 人手不足の声と、仕事をしたいという声が、うまくマッチしていくといいなと思う。

(委員) すだちの話等を詳しく聞かせていただき、起業を明確に目指している人ではなく、それ以前の、どうするか悩んでいる人への支援が多分に含まれていることが良くわかった。通り一遍の説明だと、それが伝わらない。このようなことは、対象者に限らず、多くの市民に周知していくべきと思う。税金が投入されている以上、その部分の説明が丁寧でないと、何人が起業したのか、いくら稼いだのか、いくら市税増収につながったのか、という面ばかりに目がいって、話があらぬ方向に行くことにもなるのでは。

(委員) 総合戦略も5年のうち3年が終わったので、来年度も引き続き委員の皆さんから建設的なご意見をいただき、推進していければと思う。事務局はこれまでの意見を受けてどうか。

(事務局) 周知について、これまでも取り組んできたつもりではいたが、色々な方の目線を踏まえて正確に届いているのか、しっかり見直していきたい。

(委員) 結果でなく過程の部分にお金を投入するということも、とても意義のあることだと思う。

(委員) K P I もあるので、その進捗や、あるいは体験談の発信等も含めて、成果をしっかりと確認できるようにしてほしい。

(4) その他

次回の日程は、追って連絡することとする。

以上